

第32回 教育奨励賞推薦書

ふりがな 学校名	いわてけんりつせんまやこうとうがっこう 岩手県立千厩高等学校		
ふりがな 所在地	〒029-0855 いわてけんいちのせきしせんまやちようせんまやあざいしどう45-2 岩手県一関市千厩町千厩字石堂45-2		
電 話	0191-53-2091		
ふりがな 校長氏名	も にわ たか ひこ 茂 庭 隆 彦		
学級数 (生徒数)	普通科9 生産技術科（農業系）3 産業技術科（工業系）3（523人）		
受賞歴	第9回キャリア教育文部科学大臣表彰（平成27年度）		
研究・実践のテーマ及び研究概要 (創造性に富んだ特色ある教育の研究・実践にいかにより顕著な業績を上げたか)	区 分	A. 授業の革新 ☒ B. 地域社会に根ざした教育 (いずれかを○で囲む)	
	研究・実践期間	10年以上前から時代の要請に応じた事業を取捨選択しながら実施	
	1 研究・実践のテーマ 「地域の多様な資源を活用した連携と協働による人材育成～キャリア教育をベースに～」 2 研究・実践の概要 本校は岩手県一関市の東に位置し、国際リニアコライダー（ILC）の有力な建設候補地の一つである北上高地の中山間地にある。明治34年（1901年）、郡立東磐井蚕業学校として創立され、以来、時代の変化に応じた幾多の変遷を経て、平成29年で創立116周年を迎える伝統校である。現在は、生徒数523名、教職員数65名の3学科併設校として、岩手県教育委員会とともに、一関市役所千厩支所を一つの窓口として、産学官民の多様ですばらしい人的・物的地域資源を活用し、地域・社会を「知る」、地域・全国に「発信する」、地域からの「学校支援」、そして「地域貢献・創成活動」という4観点を中心に、下図に示すような連携と協働による人材育成を積極的に行っている。		

【参考：概念図】

連携・協働機関・団体等	連携・協働の内容	
千厩高校同窓会（OB講演会）	日本銀行盛岡事務所長講演会：演題「経済に学ぶ」（少子高齢化の実態、社会の見方、今後の指針等）	知る
一関市選挙管理委員会事務局	東京大学名誉教授：演題「これからのエネルギー問題」（自然科学的観点からの問題提起等）	
	主権者としての自覚を促し、必要な判断力の育成を目的に「主権者教育学習会」を実施	
連携・協働機関・団体等	連携・協働の内容	発信する
一関市長、一関市議会議員との懇談会	若者の意見を一関市政に（本校生徒と市長、市議会議員が一関市の将来について意見交換会）	
一般社団法人日本新聞協会	第6回いっしょに読もう！新聞コンクール 個人部門「奨励賞」受賞（平成24年「学校賞」受賞）	
岩手県NIE協議会	個人部門「優秀賞」受賞	
連携・協働機関・団体等	連携・協働の内容	学校支援
一関市民	部活動支援（13名をコーチ委嘱）	
国際ロータリー2520地区	グローバル人材の育成を目的に、青少年交換短期派遣生として、本校生2名がアメリカオクラホマ州へ	
藤沢町国際交流協会	アジア太平洋地域に交流の輪を広げるため日越、日豪教育交流事業への協力	
連携・協働機関・団体等	連携・協働の内容	地域貢献・創成活動
一関市役所千厩支所＋新町振興会	生産技術科スイーツ開発プロジェクト（桑シフォン等の開発・製造・販売）→1901年蚕業学校として創立	
一関市役所千厩支所＋JAいわて平泉	普通科の生徒による「いちのせきのトマトビュレ」パッケージデザインの開発（地域づくりに貢献）	
一関市役所＋一関市千厩公民館	千厩里山塾（本校生産技術科教員が講師となり市民を対象に「花のまちづくり」コースを開設）	
一関市役所（一関市役所千厩支所）	「見つめよう育てよう郷土の宝のち輝く一関」事業での卓上カレンダー制作	
北いわてアパレル産振会＋東北広域振興局	本校生産技術科の生徒が「優秀賞」受賞一縫製業部門で次代の地域産業を担う人材育成が目的	
千厩まちづくり株式会社	平成28年度で第10回を迎える「せんまやひな祭り」に係る伝統の継承並びに華曲部・茶道部・草花班の参加	
かまばた織伝承の会藤沢支部	地域の伝統文化の理解と継承（ボーチなどの作品を製作し文化祭などに出品。その後地域・学校内で活用）	
幼稚園・中学校・介護老人保健施設	幼稚園との交流学習（小さな親切実行章）、要望に応えた小学校出前授業、クリスマス会に吹奏楽部等が参加	

進路（進学）：岩手大学、岩手県立大学 ※1、秋田大学、福島大学、宇都宮大学 ※2、一関工業高等専門学校 等 →「地域創生」を目標にする生徒が増加
 進路（就職）：毎年、卒業生の約3割が管内及び県内に就職（この割合は増加傾向） ※1：産業技術科からの入学実績有り、※2：生産技術科からの入学実績有り

	本校の設置場所である一関市千厩町でも人口減少が進む中、ふるさと振興を果たし、この地域のみならず岩手を牽引する人材の育成が求められている。本校の教育目標は、「自主・自立の精神に富み、生涯にわたり学ぶ意欲と国際的視野を持った、心身ともに健康でたくましい人間を育成する」ことである。この目標の具現化のため、校内では校長を筆頭に校務運営委員会が中心となり、課題に向かう方向性を教職員と共有しつつ、学校独自あるいは学校評議員を仲立ちとして関係機関・団体等と打合せをしたり、地域コーディネータの一つである一関市役所千厩支所と交互に企画案等を協議したりしながら、連携と協働による事業を計画的に実施している。これらの事業が単発に終わらず継続できている要因は、学校と地域双方が利益を享受できている点にある。また、実践内容は校報等で周知を図り、評価・改善に関する意見は事後アンケートや学校評議員会などで収集・聴取し、PDCAサイクルに基づく見直しを絶えず行っている。 前述の通り、本校には普通科、産業技術科（工業）、生産技術科（農業）の3学科がある。それらが併設されている長所の一つに、「生徒が様々な物差しを共有できる」ことがある。生産技術科が地域興しの一環として行った振興会との連携・協働事業である「スイーツ開発プロジェクト」では、授業に外部講師の料理研究家を招き、生徒の技術力を高め、生徒が開発したスイーツを「せんまや夜市」（昭和57年（1982年）スタート、平成22年度地域づくり総務大臣賞受賞）に出品し、生徒自ら市場調査を行った。この努力が、かつて盛んだった養蚕にちなんだ桑を材料に、地元菓子店が製造を担当した地域発の新スイーツ「桑シフォン」の開発につながった。そしてこの活動に啓発された普通科の生徒たちが、総合政策学部を有する地元の公立大学に、「新たな産業の育成」や「コンパクトシティの実現」を目指し進学した。また、ILCに関わる仕事を目指し工学部に進学した生徒もいる。さらに、高等学校ロボット競技全国大会に出場した産業技術科課題研究班の生徒たちは、その技術を地域振興に役立てたいと考え始めるようになった。このように、地域の多様な資源を活用した連携と協働による人材育成事業は、生徒に「総合生活力」と「人生設計力」を身に付けさせることを目標とする、「いわてのキャリア教育」とも相まって、生徒の「自立性」、「協働性」、そして「創造性」の育成に素晴らしい効果を及ぼした。
研究実践体制	「地域の多様な資源を活用した連携と協働による人材育成」の実践に当たり、校内では校長を筆頭に校務運営委員会が中心となり、学校評議員会（地域コーディネータの役割①）を有効に活用しながら、生徒、保護者、同窓会、教職員、行政（地域コーディネータの役割②）、地域（各種機関・団体等）の6者がそれぞれの役割と責任を果たし協働している点に大きな特色がある。
推薦理由（要旨）	当该校では、創立以来「生徒一人ひとりを大切にする教育」を最優先に全教職員が一丸となって学校教育に取り組んでいる。また、生徒一人ひとりが自己の在り方・生き方を考え、主体的に進路を選択し、社会人・職業人として自立するための能力を育むため、進路指導はもとより全ての教育活動をキャリア教育の視点から捉え直し、計画的・組織的に取り組んでいる。その結果として、入学から卒業までの3年間で、当该校の生徒は見違えるほどの成長を遂げ、外部からは就職にも進学にも強い高校として高い評価を得ている。 当该校の進路状況は、進学と就職の割合が約1対1である。就職では、ものづくりや農業の担い手など地方創生の意欲を胸に、卒業生の約30%が管内及び県内に就職し、低い離職率が特徴である。進学では、平成26年度に、工業系の産業技術科から岩手県立大学ソフトウェア情報学部2名を含む計20名が、また27年度は、農業系の生産技術科から宇都宮大学農学部1名を含む計16名が、平成28年度は、地方創生を志した普通科の生徒が福島大学理工学部や岩手県立大学総合政策学部合格し、国公立大学に13名が進学した。これら普通科、専門学科併設の特徴を生かしたキャリア教育推進に関わる努力が認められ、当该校は平成27年度、第9回キャリア教育文部科学大臣表彰を受賞した。 一方、「まち・ひと・しごと創生法」が平成26年末に閣議決定され、平成28年4月1日に施行された。少子高齢化や地方創生という課題は、わが国の存亡に大きく関わる喫緊の課題として取り沙汰されている。また、「まち・ひと・しごと創生総合戦略（抄）」においては、「学校を核として、学校と地域が連携・協働した取組や地域資源を生かした教育活動を進める」としている。 当该校は、今年（平成29年）で創立116年を迎える歴史と伝統を有し、岩手県で唯一、普通科、農業系の生産技術科、工業系の産業技術科が設置されている高校である。当该校は3学科併設校としての特徴を最大限にいかし、キャリア教育をベースに、地域の多様な資源を活用した連携と協働による人材育成に係る教育活動を積極的かつ計画的に進めている高校である。 以上、当该校は、御社教育奨励賞授与規程に照らし、その候補に相当であると判断し推薦するものである。